

中村喜一郎著 「堅牢染色法」 (2)

配合色の部

配合色の原色は前項に記載したアリザリン染料およびその他堅牢なる7種の染料を以て原色として種々之を配合して数十種の色糸を染め参照のため各々染色の標本を附し併せて染法毎に原染料の種類及びその分量を細記した。然し染色の際において下漬の薬品且つはその液度数の高下は固より用水の善悪若しくは温度の高低に従って幾分か濃淡美悪の差異なきこと能わざるべし。蓋し記載の方法に従い染めた配合色は前記の原色と均しく大気及び日光に曝すも決して褪色の懼れなく酸類及び灰汁若しくは石鹼などの作用においても更に変色の憂いなく着色堅牢にて光沢や鮮明度は未だ他にその類を見ない。但しその法によりて染めた色毎に各々名称を附したるは唯その染法を見出すに便利をに与えたもので名称の適否やは取えて之を証すること能わず技者の推測あらんことを乞う。

白茶色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ1～2度の中に絹糸を浸漬すること3時間以上一夜を経て取出して絞り、別浴に微温湯を設け絹糸100匁につきソーダ灰3～4匁を溶かしその中に絹糸を投入し濯ぎ浸漬すること10分以上して引揚げ絞り上げ数回清水を以て洗う。
- (2) 染浴に適宜の清水を満たし100分中20分のガルフラビン2匁5分、クルライン1分100分中20のアリザリン オレンジ5分を加えよく混ぜてその冷液に(1)の下漬糸を投入し20分後徐々に加温し斑染なきようよく繰り殆ど沸騰すれば取出して絞り残液に冷水少量を加え醋酸1～1匁5分を滴加し再び染糸を浸漬し繰り加温し残液中の染料を完全に吸着させて取出して清水にて洗う。
- (3) 浴に適宜の温湯を設けソーダ灰2～2匁5分を溶かしその中に(2)で染めた絹糸を浸漬し絞り上げて残液にマルセル石鹼4～5匁を溶かし再び染糸を投入して繰り余分の染料を脱着させ沸騰すれば取出して絞り稀薄のソーダ灰の温湯で濯ぎ石鹼分を除去し次に温湯で洗い別浴に清水を設け少量の醋酸を加え染糸を投入し色相を染明にし後水洗する。
(注意) この方法により染めた色は大気や日光に褪色する懼れなく酸類や石鹼やソーダなどの作用により変色することなく殊に醋酸クロムの濃厚液で下漬する以上は仮令生糸を石鹼やソーダで煮沸しても決して鍊り和らぐ恐れなきものとす。この理由により鍊白絹糸を染色する際醋酸クロム液を使用する時は単に染料を固着させる媒介剤だけでなく石鹼やソーダ液で如何に煮沸するも過度の鍊白の患なき効力あるものにて前後の染法において該液を用いたる者は皆均しきものと知るべし。

錆白茶色の染法

- (1) 醋酸クロムまたはクロム明礬ボーメ1～2度の液に絹糸を浸漬し一夜経て之を絞り絹糸100匁につきソーダ灰3匁を溶かした温湯を設けそこに下漬する絹糸を投入してよく濯ぎ清水で洗う。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のガルフラビン2匁5分、同じく20のアリザリン オレンジ5分、クルライン7分5厘の液を別の器に溶かし混和しこの浴に(1)の下漬糸を浸漬して繰り約20分後絞り上げる。残液に醋酸少量を加え再び染糸を投入し繰りを続け加温して残液が無色になるを見て絞り上げ清水にて数回洗滌する。
- (3) 別浴にソーダ灰2匁の温湯を満たし(2)の染糸を浸漬絞り上げ残液にマルセル石鹼を溶かし再び染糸を浸漬し加温沸騰せしめること前項の染法と同じなれば以下省略する。

赤海老色の染法

- (1) 醋酸盤土液ボーメ5~6度のもの約5升に対し硝酸鉄液ボーメ30度のもの5勺を混和した液に絹糸を下漬する。或は明礬液ボーメ7~8度のもの5升に付き硝酸鉄液5勺をこの液に絹糸を浸漬し一夜して之を絞り上げ別浴に温湯適量を設けソーダ灰5~6勺を溶解し下漬糸を濯ぎ尚浸漬すること10~20分にして絞り上げ之を清水にて数回洗滌する。若しソーダ液の浸漬が不足の場合染色に困難を生じる恐れあり注意する。
- (2) 染浴に適量の冷水を満たしアリザリン、ロート油及び醋酸石灰を混和しその中に下漬糸を投入し染めることアリザリン赤色の染法と同じ。

(別法)

- (1) 醋酸盤土液ボーメ5~6度のものに絹糸を浸漬6時間以上して絞り上げ前法の如くソーダの温湯中に投入し充分に濯ぎ次に清水にて数回洗う。
- (2) 染浴に冷水を入れ絹糸100勺に付き100分中20のアリザリン帯黄20勺クルライン1勺及びロート油8~10勺を入れて攪拌し下漬糸を浸漬し繰ること20分して絞り上げ残液に醋酸石灰1勺の溶液を注加し再び糸を浸漬し徐々に加温し沸騰すれば引揚げ残液にソーダ灰2勺を溶かしその中に糸を暫く浸漬し絞り上げ水洗する。
- (3) 別浴に温湯を設けソーダ灰3~4勺を溶かし(2)の染糸を繰り入れ20分後絞り上げ残液にマルセル石鹼4~5勺を溶かし再び染糸を入れ加温し沸騰すれば絞り上げて稀薄ソーダ灰の温湯にてよく濯ぎ石鹼分を除去し次いで数回洗滌する。

海老色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ10度のもの2分と醋酸盤土液ボーメ5度のもの1分を混和しその液に絹糸を浸漬し6時間後絞り上げ別浴に温湯適量を設け絹糸100勺に付きソーダ灰5~6勺溶かしこの糸を入れよく濯ぎ次いで清水にて数回洗滌する。
- (2) 染槽に冷水を満たし20のアリザリン マルーン15勺、アントラセン ブラウン2勺及びクルライン5分を混和し下漬糸を繰り入れ20分浸漬後絞り上げ、残液に醋酸1勺を滴加して再び糸を浸漬し繰り加温して沸騰すれば固く絞り水洗する。
- (3) 浴に温湯を設けソーダ灰3~4勺を溶かし(2)の染糸を浸漬暫くして絞り上げ残液にマルセル石鹼5~6勺を溶かしその中に再び染糸を入れ加温し沸騰すれば絞り上げ別浴にて温湯を設けソーダ灰3~4勺を溶かしこの中に染糸を入れよく濯ぎ石鹼分を除去し水洗後稀薄の醋酸水に暫く浸漬し色相鮮明なるを見て絞り上げ清水にて数回洗う。

(別法)

醋酸盤土液ボーメ5度のもの5升に対し硝酸鉄液ボーメ30度のもの1合を混和しその中で下漬後ソーダ灰の温湯で濯ぎ水洗後染めること赤海老色染法と異なる所なき故に省略する。

- (注意) 海老色を染めるときに盤土剤と鉄剤を混和せずとすれば最初醋酸盤土液または明礬液に下漬しソーダ灰の温湯で濯いで数回洗滌後ボーメ半度のものに浸漬して数時間(時間の長短で染色に濃淡ある)を経て固く絞りソーダ灰温湯にてよく濯ぎ清水を以て水洗後アリザリン赤色染法の如く染める。但し鉄液中での下漬方法が悪しき時は染斑を生じるので注意する。

暗赤色の染法

- (1) 醋酸盤土ボーメ10度以上の液に絹糸を浸漬一夜経て絞り絹糸100勺に付きソーダ灰4~5勺の温湯で濯ぎ清水にて洗滌する。
- (2) 染槽に冷水を満たし100分中20のアリザリン マルーン3勺、同20のアリザリン20~22勺及びロート油8~10勺を混和し(1)の下漬糸を入れ繰り浸漬して絞り上げ残液に醋酸石灰1勺5分の溶液を加え再び糸を入れ暫時浸漬し繰り徐々に加温し沸騰す

れば絞り上げ水洗せず直に之をソーダ灰温湯にて充分濯ぎ絞り次に移る。

- (3) 浴に温湯を適宜満たしマルセル石鹼5～6匁およびソーダ灰2～3匁を溶かし(2)の染糸を入れて加温し沸騰させて余分の染料を除去し色相を鮮美なるを見て絞り上げ次に移る。
 - (4) 浴に温湯を満たしソーダ灰4～5匁を溶かして(3)の染糸を入れよく濯ぎ附着せる石鹼分を除去し絞り清水にて洗う。
- (注意) 盤土液中に少量の鉄剤を滴加する時はアリザリン マルーンを用いず染める得る。

栗皮茶色の染法

- (1) クロム明礬または醋酸クロム液ボーメ7～8度に絹糸を浸漬6時間以上一夜を経て絞り絹糸100匁に付きソーダ灰5～6匁の温液を設け下漬糸をよく濯ぎ清水にて洗う。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のアリザリン マルーン8匁、同20のアントラセン ブラウン2匁を入れ尚その上にガルライン1匁5分を別器にて溶かし加え(1)の下漬糸を浸漬し繰りながら加温し沸騰すれば絞り上げこの時着色が不充分なら残液に冷水を加え温度を下げ醋酸少量を滴加し再び糸を入れ加温し染料を吸着させて後清水にて洗う。
- (3) 別浴に温湯を設けソーダ灰3～4匁を溶かし(2)の染糸を浸漬し暫時にして引揚げ残液にマルセル石鹼5～6匁を溶かし再び染糸を入れ加温し余分の染料を除去し沸騰すれば固く絞り之をソーダ灰5匁の温湯に入れ石鹼分を完全に除いて次に熱湯で濯ぎ水洗後稀薄の醋酸水に暫く浸漬し終わりに清水にて洗う。

淡小豆茶色の染法

- (1) 醋酸クロム又はクロム明礬液ボーメ2～3度に絹糸を浸漬6時間以上一夜経て固く絞り之を絹糸100匁に付きソーダ灰3匁の温液に入れよく濯ぎ数回水洗する。醋酸クロム又はクロム明礬ボーメ5度以上10度前後の濃厚液を使用し以て下漬するとき着色上において別に妨げなく却って絹糸の量目を増す。
- (2) 染槽に冷水を満たし20のアリザリン マルーン1匁、同じく20のガルロフラビン2匁2分及びクルライン1分を別器に溶かして加え(1)の下漬糸を入れ繰りながら加温し染める。手順は前の栗皮茶色と同じにより省略する。

葡萄茶色の染法

- (1) クロム明礬または醋酸クロム液ボーメ3～4度のものに絹糸を浸漬しソーダ灰の温湯で濯ぎ前の栗皮茶色の染法と同じく施行し終れば数回水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のガルロフラビン5分同20のアリザリン マルーン1匁5分及び同20のアントラセン ブラウン1匁を混和し(1)の下漬糸を入れて徐々に加温し華氏100～120度に至り絞り上げ残液に醋酸少量を滴加し再度染糸を浸漬し加温沸騰すれば引揚げて冷却し数回洗う。
- (3) 浴に温湯適量を満たし絹糸100匁につきソーダ灰3匁を溶かし(2)の染糸を入れ徐々に加温すれば引揚げて残液にマルセル石鹼4～5匁を溶かし再び染糸を浸漬し加温して沸騰すれば絞り上げ之をソーダ灰の温湯中に入れよく濯ぎ石鹼分を除き水洗し次に稀薄醋酸水に暫時浸漬し絞り上げ数回清水にて洗う。

媚茶色の染法

- (1) 醋酸クロム又はクロム明礬液ボーメ8～10度に絹糸を浸漬し一夜を経て之を絞り上げ別浴に温湯を設け絹糸100匁に付きソーダ灰5～6匁を溶かし下漬糸を浸漬10分後尚よく濯ぎ清水にて洗滌する。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のアントラセン ブラウン1匁、同20のガルロフラ

ビン1 4 匁、クルライン1 匁8 分及びアリザリン ブルー6 分（後の2 つは各々別に溶解）を混和し(1)の下漬糸を入れて繰り徐々に加温し2 0 分後絞り上げ残液に醋酸少量を加え再び糸を入れ染める。手順は前の葡萄茶色と同一なので以下省略する。

(注意) 添付標本は上の配合によるが別法にて醋酸クロム液中に少量の鉄剤を混和し絹糸を下漬する時ガルフラビン、アリザリン ブルー、アリザリン オレンジの3 種適宜の配合により同一の色相を染め得る。

金茶色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ5 ~ 6 度のものに絹糸を浸漬し6 時間以上一夜を経て之を絞り前法(1)の如くソーダの温湯にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし絹糸1 0 0 匁に1 0 0 分中2 0 のアリザリン オレンジ1 匁3 分と同2 0 のガルロフラビン1 0 匁、同2 0 のアントラセン ブラウン1 匁6 分を混和して加え(1)の下漬糸を入れ繰り加温し醋酸少量を滴加して沸騰に至れば絞り後水洗する。
- (3) 別浴に温湯を設けソーダ灰3 ~ 4 匁を溶解し(2)の染糸を浸漬し暫時して絞り残液にマルセル石鹼4 ~ 5 匁を溶かし再び染糸を浸漬し加温し殆ど沸騰に至れば余分の染料を除去してソーダ灰5 匁の温湯に入れよく濯ぎ石鹼分を除いて更に温湯にて洗い尚ソーダ分を除く為稀薄の醋酸水に浸漬し清水にて数回水洗すべし。

別法

- (1) 醋酸盤土ボーメ4 ~ 5 度の液3 升到硝酸鉄ボーメ3 0 度の液1 5 匁を入れその中に絹糸を浸漬し6 時間以上一夜経て絞りソーダ灰の温湯にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし絹糸1 0 0 匁につき1 0 0 分中2 0 のアリザリン オレンジ2 匁同2 0 のガルフラビン1 0 匁を混和しその中に(1)で下漬した絹糸を入れ徐々に加温し前法の手順に準じて染め、次に石鹼及びソーダ灰の温湯に投じて色相を鮮明にする。

利久茶色の染法

- (1) 醋酸クロムまたはクロム明礬液ボーメ5 ~ 6 度のものに絹糸を一夜浸漬して翌日絞り前法の如くソーダの温湯に浸漬しよく濯ぎ数回清水で水洗する。
(注意) 利久茶色に少し錆色を求める時は醋酸クロム液ボーメ5 度のもの凡そ5 升に対し硝酸鉄液ボーメ4 0 度の5 匁を混和し絹糸を下漬しソーダの温湯にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を設け絹糸1 0 0 匁に1 0 0 分中2 0 のガルロフラビン4 匁、同じく2 0 のアントラセンブラウン5 匁5 分及びクルライン1 匁5 分を別器で溶解して加え下漬糸を染める手順は前法に準じる。
- (3) 浴に温湯を満たしソーダ灰及びマルセル石鹼を溶かし(2)で染糸を浸漬し色相を鮮明にする工程は前法に同一なるにより省略する。

黄焦茶色の染法

- (1) 醋酸クロム又はクロム明礬液ボーメ8 ~ 1 0 度のものに絹糸を浸漬して一夜にして絞り前法の如くソーダの温湯にて濯ぎ清水で洗う。同
- (2) 染浴に冷水を満たし絹糸1 0 0 匁につき1 0 0 分中2 0 のガルロフラビン1 5 匁同2 0 のアントラセンブラウン3 匁、アリザリン ブルー7 分及びクルライン1 匁2 分（2 つは各々別の器で溶解する）を混和し下漬糸を浸漬し加温して前法に準じて染める。
- (3) 浴にソーダ及び石鹼の温湯を設け染糸を浸漬し加温し色相を鮮明にする法は前と同じ。

赤焦茶色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ10度のものに絹糸を浸漬し6時間以上一夜を経て絞り前法と同じようにソーダの温湯にて濯ぎ清水にて洗う。
- (2) 染浴に冷水を設け絹糸100匁に100分中20のアントラセン ブラウン10匁、同20のアリザリンマルーン5匁を加えその液に醋酸少量を滴加し(1)の下漬糸を入れて徐々に加温し沸騰すれば引揚げ絞り清水を以て数回洗う。
- (3) 浴に温湯を満たしソーダ灰4匁を溶かし(2)の染糸を入れ20分して絞り上げて残液にマルセル石鹼5匁を溶かし染糸を浸漬し加温沸騰すれば絞り上げ更にソーダ及び石鹼の温液を作りその中に染糸を入れ余分染料を除去し、次にソーダの温湯で濯ぎ稀薄の醋酸水に浸漬した後数回水洗する。

黄色の染法

- (1) 醋酸盤土液ボーメ5~6度のものに絹糸を浸漬し一夜を経て翌日之を絞り上げ、別浴に温湯を適宜に設け絹糸100匁にソーダ灰5~6匁を溶かし10分後引揚げ尚濯ぎ数回以て洗うべし。
(注意) 醋酸盤土液を用いず醋酸クロム液で下漬を施すこともあるが色相少し暗色を帯び故に黄色の如き正色を染めるときはなるべく醋酸盤土剤を用いるを良とする。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のガルロフラビン15匁および同20のアリザリン オレンジ4匁を混和し(1)の下漬糸を浸漬し徐々に加温し醋酸少量を滴加し沸騰に至り引揚げ絞り清水にて洗う。
- (3) 浴に冷水を適量設け塩化錫1匁~1匁5分を溶かしその中に(2)の染糸を5~1分間浸漬し引揚げ数回水洗しても塩化錫の臭気を除去出来ないときは次の手順で石鹼及びソーダの温浴に浸漬し余分の染料と臭気を完全に除去する。
- (4) 浴に温湯を設けソーダ灰5匁を溶かしその中に(3)の染糸を浸漬し繰り20分後絞り上げ残液にマルセル石鹼5匁を溶かし再び染糸を入れ加温し沸騰に至り絞りソーダの温湯で濯ぎ次に之を稀薄の醋酸水に通して後清水にて洗う。

銀鼠色の染法

- (1) 醋酸クロム又はクロム明礬ボーメ1~2度の液に絹糸を浸漬3時間以上して絞り別浴に温湯を満たし絹糸100匁にソーダ灰2~3匁を溶かし下漬糸を浸漬し濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を設け100分中20のアリザリン1分5厘、アリザリン ブルー3分及びクルライン1分を別器に溶解し加え(1)の下漬糸を入れ繰りながら加温し沸騰に至る。染料は殆ど吸着するが若し残れば醋酸少量滴加して染め然る後に数回水洗する。
- (3) 前法の如く浴に石鹼3匁及びソーダ2匁の液を作り染糸を入れ繰返し色相を鮮明にして稀薄醋酸水に通し数回清水で洗滌する

淡利久鼠色の染法

- (1) 醋酸クロム又はクロム明礬ボーメ4~5度の液に絹糸を浸漬して6時間以上を経て絞り絹糸100匁に付きソーダ灰3~4匁の温液を作り下漬糸を入れよく濯ぎ清水で洗う。
- (2) 染浴に冷水を満たし絹糸100匁に100分中20のアリザリン1分、クルライン6分及びアリザリンブルー8分を別に溶かして加えその中に下漬糸を入れて繰り醋酸少量を滴加し加温し沸騰に至れば絞り上げて数回洗滌する。
(注意) アリザリン、ガルロフラビン及びアリザリン ブルーの3種を以て適宜の配合を為すもまた標本の如き着色を得る
- (3) 浴に温湯を適宜満たし石鹼及びソーダの液を調製し染色物を煮沸する手順前法に同じ。

濃利久鼠色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ8～10度のものに絹糸を浸漬し一夜を経て絞り絹糸100匁に付きソーダ灰6～7匁の温溶液を作り下漬糸を濯ぎ数回水洗する。
- (2) 浴に冷水5升を満たし醋酸少量滴加し攪拌しボーメ40度の硝酸鉄液3～4匁を加え(1)の下漬糸を浸漬し1時間以上して絞り之をソーダの温湯で濯ぎ清水にて洗う。
但し醋酸クロム液中へ硝酸鉄液を混和することは他に応用が難しいため注意すべし。
- (3) 染浴に冷水を設け100分中20のアリザリン5分、アリザリン ブルー2匁5分及びクルライン3匁の溶液(各々別に溶かすべし)を加えその中に(1)の下漬糸を入れ醋酸少量滴加し加温し染める手順は前法と同一なれば省略する。
(注意) (1)の下漬法のみで(2)の鉄剤を用いず(3)にて染色するときアリザリンは配合せずとも濃利久鼠色染得ると雖も色相鮮明にして錆味なきにより鉄剤とアリザリンとを使用する方優れりとす。

淡藍鼠色の染法

- (1) 醋酸クロムボーメ3～4度の液に絹糸を浸漬し3時間以上して絞り、之を絹糸100匁に付き3匁の割合で溶かしたソーダ灰の温溶液にてよく濯ぎ水洗後前法の如く再び鉄液に通してソーダ水にて濯ぎ清水を以て洗う。
(注意) 鉄液を下漬に用いなくても淡藍鼠色に染め得れど前法と同じく錆色を求めるには鉄剤を下漬に用いるが美麗なる色を染めんとすれば鉄剤を用いない。
- (2) 染浴に適量の冷水を満たして100分中20のアリザリン2匁、アリザリン ブルー1匁5分、クルライン5分の溶液(別器で溶解す)を混和し更に醋酸1匁を滴加し(1)の下漬糸を浸漬して徐々に加温し前法の如く染める。
- (3) 浴に温湯を満たしソーダ及び石鹼の温液を調製し染糸を入れ加温し色相を鮮明にする工程は前法と同じなるにより省略する。
(注意) 鉄剤にて下漬したアリザリン ブルー及びアリザリン オレンジの2種で配合し染めた色相は錆色を帯びる。またアリザリン ブルー及びガルロフラビン2種の配合ならば鮮明なる藍鼠色を染めることができる。

濃藍鼠色の染法

- (1) 醋酸クロム液またはクロム明礬液ボーメ8～10度のものに絹糸を浸漬し翌日之を絞り絹糸100匁に6匁の割合で溶かしたソーダ灰の温液で濯ぎ前法の如く稀薄の鉄液に浸漬し数時間の後ソーダ水にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に適量の冷水を満たし絹糸100匁に100分中20のアリザリン5匁及びアリザリン ブルー2匁、クルライン1匁の溶液(別器にて溶かして)を調製混和してその中に(1)の下漬糸を浸漬し10分後絞り上げ残液に醋酸少量を滴加し再び糸を入れ加温沸騰すれば取り出して稀薄のソーダ液にて濯ぎ清水にて洗滌する。
(注意) アリザリン オレンジ、ガルロフラビン及びアリザリン ブルーで配合すれば標本の如き色相が得られる。
- (3) 浴にソーダ灰5匁の温液を設け(2)の染糸を入れ加温し3～40分沸騰すれば絞り上げ更に稀薄のソーダ温液に入れ充分濯ぎ石鹼分を除去し温湯で濯ぎ数回水洗を施す。

赤鼠色の染法

- (1) 醋酸クロムまたはクロム明礬ボーメ4～5度の液に絹糸を浸漬6時間以上して絞り絹糸100匁に対しソーダ灰4匁の温液にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のアリザリン1匁、20のガルロフラビン1匁2分、アリザリンブルー5分及びクルライン7分の溶液（別器にて溶く）を調製し加え下漬糸を入れ暫時して絞り醋酸少量を残液に適加加温し沸騰すれば絞り前法の如く行う。
(注意) ガルロフラビン、アリザリン及びアリザリンブルーの3種にても適宜配合すれば標本と同じ色相に染め得る。

葡萄鼠色

- (1) 醋酸クロムまたはクロム明礬ボーメ5～6度の液に絹糸を浸漬し6時間後絞り前法の如くソーダ灰の温液にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし絹糸100匁に100分中20のアリザリン マルーン2匁5分及びアリザリンブルー7分の溶液（別器で溶く）を調製し醋酸少量滴加しよく混和し下漬糸を浸漬加温染色すること前法と同じく行う。

松葉鼠色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ5～6度のものに絹糸を浸漬し一夜を経て翌日に之を絞り前法と同じくソーダの温湯にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を適宜設け絹糸100匁にアリザリンブルー1匁、クルライン1匁および、100分中20のアリザリン オレンジ2匁および同20のガルロフラビン3分の溶液 {別器で溶く} を調製し(1)の下漬糸を浸漬し暫時絞り上げ醋酸少量を滴加し再び染糸を浸漬し徐々に加温し沸騰すれば絞り上げ水洗する。
(注意) アリザリンブルー、アリザリンオレンジ、ガルロフラビン3種にても同じ色相を得る。
- (3) 浴に温湯適宜を満たしソーダ灰4匁を溶き加え染糸を浸漬し暫時して絞りマルセル石鹼5匁を溶かし再び染糸を入れて繰り色相を鮮明にしてソーダ温湯にて濯ぎ水洗し稀薄の醋酸液に浸漬し次いで水洗する。

錆松葉鼠色の染法

- (1) 醋酸クロムまたは明礬液4～5度のもの5升に対し硝酸鉄液ボーメ40度のもの20匁を混和し加えて絹糸を浸漬し6時間以上一夜を経て之を絞り絹糸100匁につき4匁のソーダ灰の温湯に暫く浸漬しよく濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし100分中20のガルロフラビン3匁5分、同20アリザリン4匁、アリザリンブルー5分及びクルライン2分の溶液（別器で溶く）を混和し加え(1)の下漬糸を入れ暫時して絞り醋酸1～1匁5分を滴加し再び糸を入れ加温前法の如く染める。
- (3) 浴に温湯を設け石鹼及びソーダを溶かし(2)で染めた糸を入れ色相を鮮美にするなどの手順は前法に同じ故に省略する。
(注意) アリザリン、ガルロフラビン、アリザリンブルーを適度に配合すれば同色を得る。

鼠色の染法

- (1) 醋酸クロム液またはクロム明礬液ボーメ5～6度のものに絹糸を浸漬し6時間以上して絞り上げソーダの温湯にて濯ぎ水洗する。
- (2) 浴に冷水5升を満たし硝酸鉄液ボーメ40度のもの1合を加えよく攪拌して(1)の絹糸を浸漬し1時間以上にして絞り之を絹糸100匁に3匁の割を以て溶かしたソーダ灰の温液

にて濯ぎ水洗する。

- (3) 染浴に冷水を満たし100分中20のアリザリン オレンジ1匁、同20ガルロフラビン2匁2分、クルライン3分及びアリザリン ブルー3分の溶液（別器で溶く）を入れ攪拌し徐々に加温し沸騰すれば絞り出して稀薄の醋酸水にて濯ぐ。
- (4) 浴に適宜の温湯を設けマルセル石鹼4匁及びソーダ灰3匁を溶かし(3)の染糸を入れ加温沸騰すれば絞り之をソーダの温湯で濯ぎ水洗後稀醋酸水に暫時浸漬し引揚げ水洗する。

草色の染法

- (1) 醋酸クロムまたはクロム明礬液ボーメ4～5度の液に絹糸を浸漬し絞り上げソーダの温湯にて濯ぐこと前法の如し。
- (2) 染槽に冷水を設け絹糸100匁に100分中20のガルロフラビン10匁及びクルライン4匁の溶液を混和し醋酸少量を滴加し(1)の下漬糸を浸漬し加温し沸騰すれば絞り出して水洗する・
- (3) 浴槽に石鹼及びソーダの温液を調製し染糸を浸漬し色相を鮮明にしソーダの温液にて濯ぐなどを前法(4)の如くする。

暗緑色の染法

- (1) 醋酸クロム液またはクロム明礬液ボーメ8～10度のものに絹糸を浸漬一夜を経て翌日之を絞り絹糸100匁に付きソーダ灰5匁を温湯中に溶かし糸を浸漬し濯ぎ水洗する。
- (2) 浴に冷水5升を満たし醋酸少量を滴加しボーメ40度の硝酸鉄液30匁を加えよく攪拌し(1)の下漬糸を入れ2時間後絞り3匁のソーダ灰の温湯にて濯ぎ清水にて洗滌する。
- (3) 染浴に冷水を設け絹糸100匁に100分中20のアリザリン5分、同20のガルロフラビン3匁、アリザリン ブルー4匁及びクルライン2匁5分の溶液（別器で溶く）を加え更に醋酸少量を加え(2)の下漬糸を浸漬し徐々に加温し沸騰に至り絞り稀薄醋酸水に入れ次いで水洗する。
- (4) 浴に温湯を設けマルセル石鹼5匁及びソーダ灰3匁を溶かし(3)の染糸を入れ加温して沸騰すれば絞りソーダの温湯にて濯ぎ数回水洗する。

別法

- (1) 硝酸鉄液または醋酸鉄液ボーメ2～3度のものに絹糸を浸漬し一夜経て後絞りソーダ灰5匁の温湯液で濯ぎ清水にて洗滌する。
- (2) 染浴に冷水を満たし絹糸100匁に100分中20のガルロフラビン6匁、アリザリン3分及びアリザリン ブルー4匁5分を予め混和した溶液を加え(1)の下漬糸を入れ醋酸少し加え加温して前法と同様の手順で染める。
- (3) 浴に石鹼及びソーダの温液を設け(2)の染糸を浸漬し色相を鮮明にすること前法と同じ。

藍革色の染法

- (1) 醋酸クロム液又はクロム明礬ボーメ8～10度の液5升に対して硝酸鉄液ボーメ30度のもの40匁を加えて混和しその中に絹糸を浸け6時間以上にして絞り絹糸100匁にソーダ灰6匁の温液を作り下漬糸を暫時浸漬しよく濯ぎ清水にて洗滌する。
- (2) 染槽に冷水を満たし100分中20のアリザリン6分、クルライン2匁及びアリザリンブルー4匁5分予め別器で溶かした溶液を加え(1)の下漬糸を入れてよく繰り加温して暫時にして絞り浴に醋酸少量滴加し再び糸を入れ加温し沸騰すれば絞りソーダの温湯で濯ぎ水洗する。
- (3) 前法の如く浴に温湯を設け石鹼及びソーダの温液で濯ぎ石鹼分を除き水せ後之を稀薄の醋酸水に通し清水にて洗滌する。

濃青色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ10度の中に絹糸を浸漬し一夜を経て翌日之を絞り絹糸100匁に付き5~6匁の割で溶かしたソーダ灰の温湯に下漬糸を浸漬して水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たしクルライン2匁、アリザリン ブルー3匁及びクルライン1匁予め別器で各々溶かした溶液を加え(1)の下漬糸を入れ繰り暫くして絞り残液に醋酸少量を滴加し再び糸を浸漬し加温し沸騰すれば絞りソーダの温湯にて濯ぎ水洗する。
- (3) 浴に温湯を設け石鹼及びソーダを溶かし染糸を浸漬し前法の如き手順で行う。

黒色の染法

- (1) 醋酸クロム液ボーメ8~10度の中に絹糸を浸漬し3時間以上して絞り絹糸100匁に付きソーダ灰5匁温湯にて濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たしアリザリン ブルー2匁5分の溶液を加え醋酸を滴加(1)の下漬糸を入れ繰りながら加温し沸騰すれば絞り前法の如くする。
- (3) 浴に石鹼及びソーダの温湯を作りその中に染糸を浸漬して前法の如くする。
- (4) 硝酸鉄液ボーメ25~30度の中に(3)の染糸を浸漬し一夜を経て翌日固く絞りソーダ灰5匁の温湯にてよく濯ぎ数回水洗する。
- (5) 染浴に冷水を満たし100分中20のアリザリン20匁クルライン3匁の液とロート油10匁を混和しその中に(4)の染糸を浸漬し徐々に加温30分後に華氏120度の温度にて絞り上げ残液に醋酸石灰1匁5分の溶液を加え再び染糸を浸漬加温し沸騰すれば引揚げて絞り水洗する。
- (6) 浴に温湯を設けソーダ灰5匁を溶かしその中に(5)の染糸を入れ繰ること20分して絞り残液にマルセル石鹼5匁を溶かし再び染糸を入れ沸騰させて色相を鮮明にして且つ余分の染料を脱除し之をソーダ灰5匁の温湯にて充分濯ぎ清水にて洗滌する。
(注意) 染めた黒色に若し赤色を帯びる時は染浴に冷水を設け適量のガルロフラビン又はクルラインの溶液を混和し醋酸を加えてその中に染糸を浸漬し加温し沸騰させて後之を石鹼及びソーダの熱湯に入れて色相を鮮明にする。

別法

- (1) 硝酸鉄液ボーメ25~30度の液に絹糸を浸漬一夜を経て翌日之を固く絞り別浴に冷水を満たし絹糸100匁に付きアンモニア水15~20匁を加えその中に下漬糸を入れよく濯ぎ数回水洗する。
(注意) アンモニア水に下漬糸を浸漬し繰る時その臭気ない時はアンモニアの不足と知る。
- (2) 染浴に冷水を設け100分中20のアリザリン25匁およびロート油10匁を入れよく攪拌し(1)の下漬糸を浸漬し少し加温して絞り上げ残液に醋酸石灰1匁5分の溶液を加え再び糸を入れ沸騰すれば絞り上げ之をソーダの熱湯にてよく濯ぎ水洗する。
- (3) 染浴に冷水を満たしアリザリン ブルー2匁及びクルライン3匁の溶液を混和してその中に醋酸を滴加し(2)の染糸を浸漬し徐々に加温し沸騰すれば引揚げ絞りソーダの温湯にて濯ぎ水洗する。
- (4) 浴に温湯を満たしマルセル石鹼6匁及びソーダ灰4匁を溶かしこの中に(3)の染糸を浸漬し徐々に加温し沸騰させて色相を鮮明にして次にソーダの温湯で濯ぎ清水で洗う。